

【建設業協会女性部会現場見学会 in 佐久地区災害復旧工事に参加】

◎開催日 令和2年11月18日(水) 11時30分～

◎出席者 県内建設系企業に勤務する女性 25名
長野県職員建設女性の会会員 2名

◎現場見学会

・災害復旧工事 佐久市石上地区、入沢・谷川地区

◎意見交換会・・・お茶、菓子を食べながら、7班に分かれて意見交換

○自己紹介

<各班から出された意見>

○災害現場見学会の感想について

- ・他の方の現場を見ることができて良かった
- ・一つの現場をじっくりと見る機会があまり無いので見学できて良かった
- ・動植物のことも考えた計画となっていることに驚いた
- ・千曲川の上流と下流の災害現場では雰囲気が違うことが分かった
- ・説明の際、復旧の状況を時系列で見られる工夫があれば良いと思った
- ・もう少し近くで現場を見たかった
- ・地元に住んでいるが、災害現場を見る機会がなかなか無いので見学できて良かった

○その他意見感想

- ・職人や若い技術者が建設業界を敬遠している、跡継ぎ問題
- ・狭い業界、皆がつながっているのを確認
- ・もっと土木に興味を持ってもらいたい

■参加者の感想■

私の班では、二名の技術者から災害復旧で日頃疑問に思っていること（「死に体」について、なぜ破壊されていないブロック積みを積み替えるのか、など）について質問が出されたため、発注者の立場で復旧の思想をお伝えしたところ、疑問の答えが判りスッキリしたと喜ばれました。

設計思想などは十分に施工技術者に伝えられていないのだと実感しました。きちんとこれが伝わっていれば、施工技術者は事業のスポークスマンとして情報を住民へ発信し、理解を得たりトラブルを回避したりできる存在となることに気づかされました。

また、私が女性だから聞きやすいという事もあるかと思いますが、時間が許せばもっと話を聞きたかったと言われ、女性技術者は男性以上に貪欲に知識を吸収しようとしているのだと感じました。「土木の仕事をしていてどうですか」との質問に「とりあえず楽しく仕事しています」との応えが返ってきて頼もしかったです。

普段、発注者と受注者として対面しているのに比べ、肩の力を抜いた話ができ、とても楽しかったです。また交流の機会が持てればと思います。